平成 25 年 10 月 11 日

岡山県感染症週報 2013 年 第 40 週（9 月 30 日～ 10 月 6 日）

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年　第 40 週（9 / 30～ 10 / 6）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 38 週　2 類感染症　結核　1 名（50 代　女）

第 39 週　2 類感染症　結核　2 名（20 代　男　1 名、30 代　男　1 名）
4 類感染症　レジオネラ症　1 名（70 代　男）
5 類感染症　ウイルス性肝炎　1 名（40 代　男）
後天性免疫不全症候群　1 名（20 代　男）

第 40 週　2 類感染症　結核　2 名（80 代　女　2 名）
3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　2 名（O157：20 代　女　1 名、30 代　女　1 名）
4 類感染症　日本脳炎　1 名（70 代　女）
レジオネラ症　1 名（50 代　男）
5 類感染症　侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（幼児　女）
梅毒　1 名（80 代　女）
風しん　1 名（50 代　男）

■定点把握感染症発生状況

○RS ウイルス感染症は、県全体で 25 名（定点あたり 0.52 → 0.46 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○手足口病は、県全体で 72 名（定点あたり 1.22 → 1.33 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

---

1. 腸管出血性大腸菌感染症は、第 40 週に 2 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 68 名となっています。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。例年、最も発生報告が多いのは 8 月ですが、10 月についても、過去 5 年の月間平均患者数が 10.6 人となっていますので、ひきつづき注意してください。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『腸管出血性大腸菌感染症注意報　発令中！』をご覧ください。

2. RS ウイルス感染症は、県全体で 25 名（定点あたり 0.52 → 0.46 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。詳しくは『**今週の注目感染症**』をご覧ください。

3. 手足口病は、県全体で 72 名（定点あたり 1.22 → 1.33 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、倉敷市（2.73 人）、備中地域（1.71 人）、岡山市（1.14 人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。ピークは過ぎたと思われるものの、患者の発生報告が続いていますので、ひきつづき、手洗い・うがいなどの感染予防に努めましょう。

4. 風しんは、第 40 週に 1 名の報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 74 名となっています。
全国の第 39 週までの累計報告数は、14,108 名で、1 週間の発生報告数が昨年同時期を下まわっているものの、関東地方・近畿地方を中心に、依然、患者の発生が続いています。詳しくは『**風しん情報**』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	→		RSウイルス感染症	↘	★
咽頭結膜熱	↑	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↗	★
手足口病	→	★	伝染性紅斑	↓	
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↑	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	→	★	無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	↑	★

【記号の説明】 前週からの推移: ↓:2 倍以上の減少　↘:1.1～2 倍未満の減少　→:1.1 未満の増減
↗:1.1～2 倍未満の増加　↑: 2 倍以上の増加
発生状況: 空白:発生なし　★: 僅か　★★:少し　★★★:やや多い　★★★★:多い　★★★★★:非常に多い
※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

【医療機関の方へのお知らせ】

感染症法の届出基準等が一部改正されました。（平成 25 年 9 月 30 日）

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令（平成 25 年 9 月 30 日厚生労働省令第 114 号）」が公布されました。
これにともない、感染症法の届出基準・届出様式が改正されました。
この改正については、平成 25 年 10 月 14 日から施行されます。

【改正の概要】

1. ロタウイルスによる感染性胃腸炎を、基幹定点医療機関による届出対象疾病とする。なお、小児科定点医療機関による感染性胃腸炎の届出については、原因ウイルス等による区別をすることなく、従前どおり実施する。

○感染症発生動向調査事業実施要綱新旧対照表
○届出基準･届出様式新旧対照表

○届出基準が変更になった感染症

２類感染症
･急性灰白髄炎　　･結核
５類感染症（基幹定点医療機関の届出：週報）
･感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）（新規）

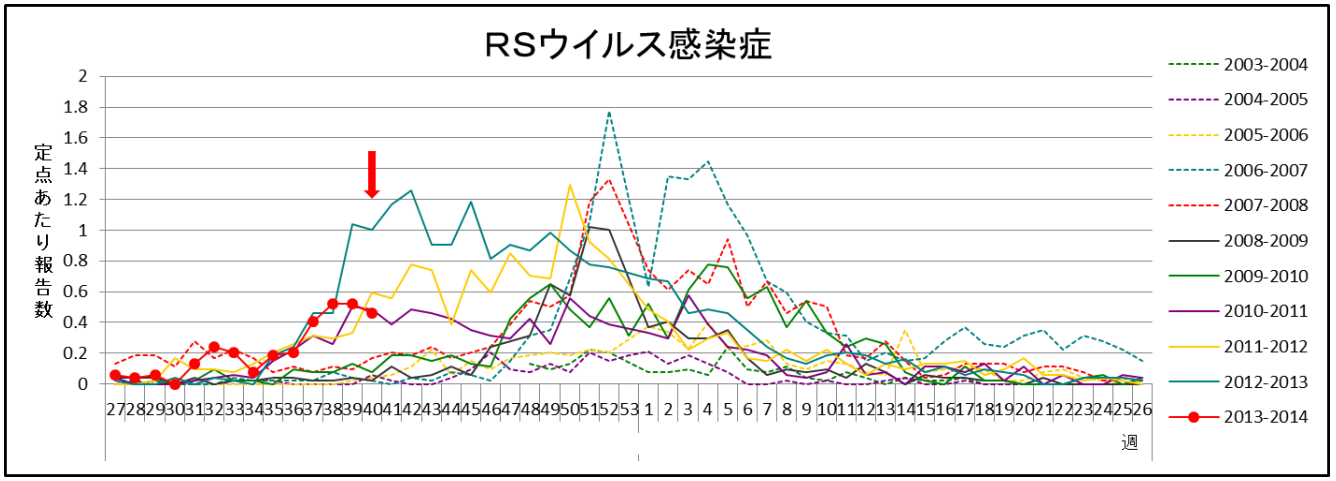
○届出様式が変更になったもの

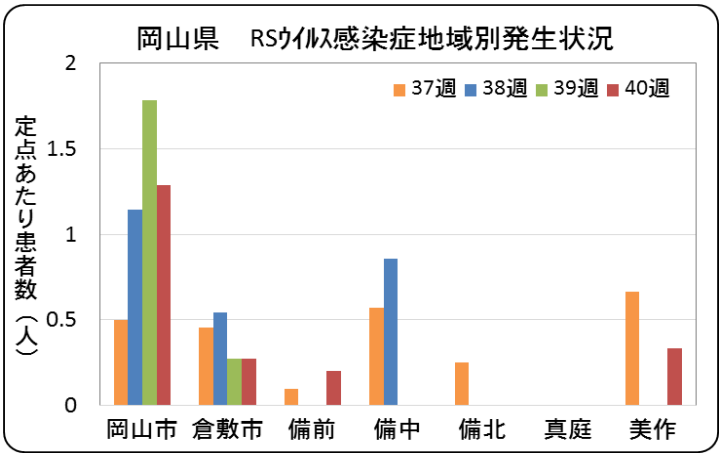
２類感染症
･結核
５類感染症（小児科定点医療機関の届出：週報）
５類感染症（基幹定点医療機関の届出：週報）

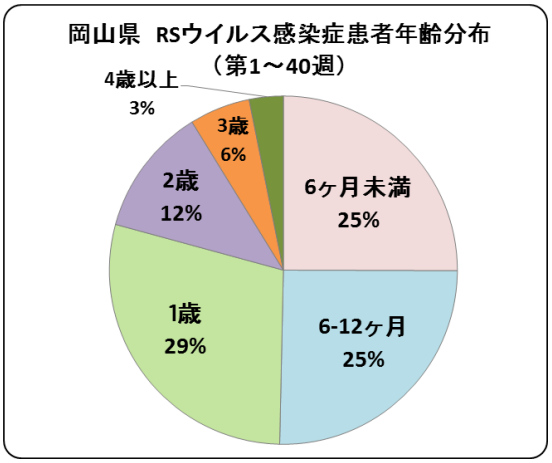
今週の注目感染症

1． RS ウイルス感染症

岡山県の発生状況グラフ

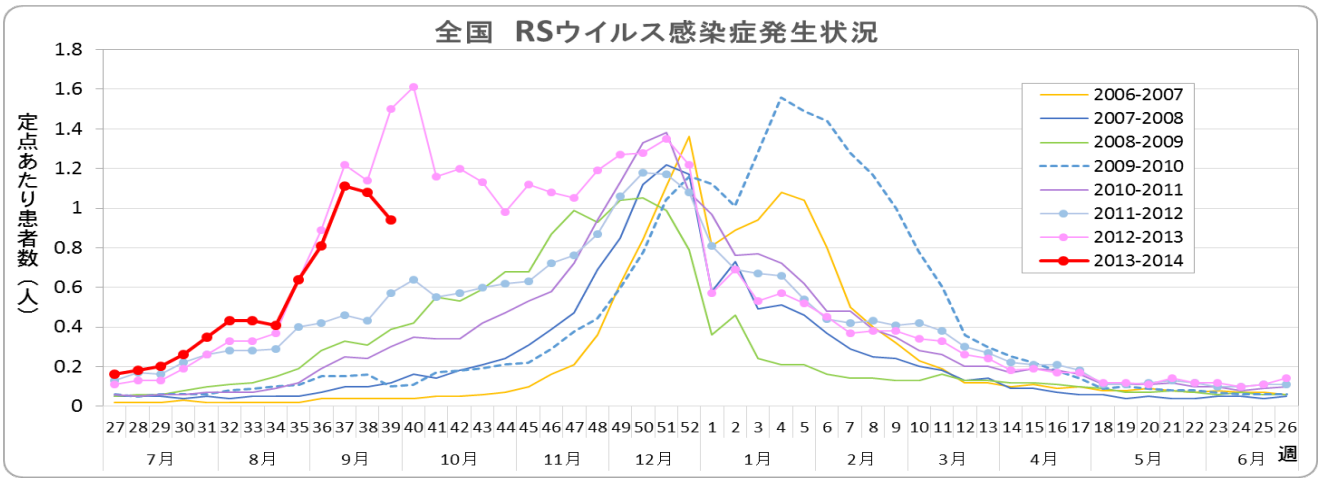






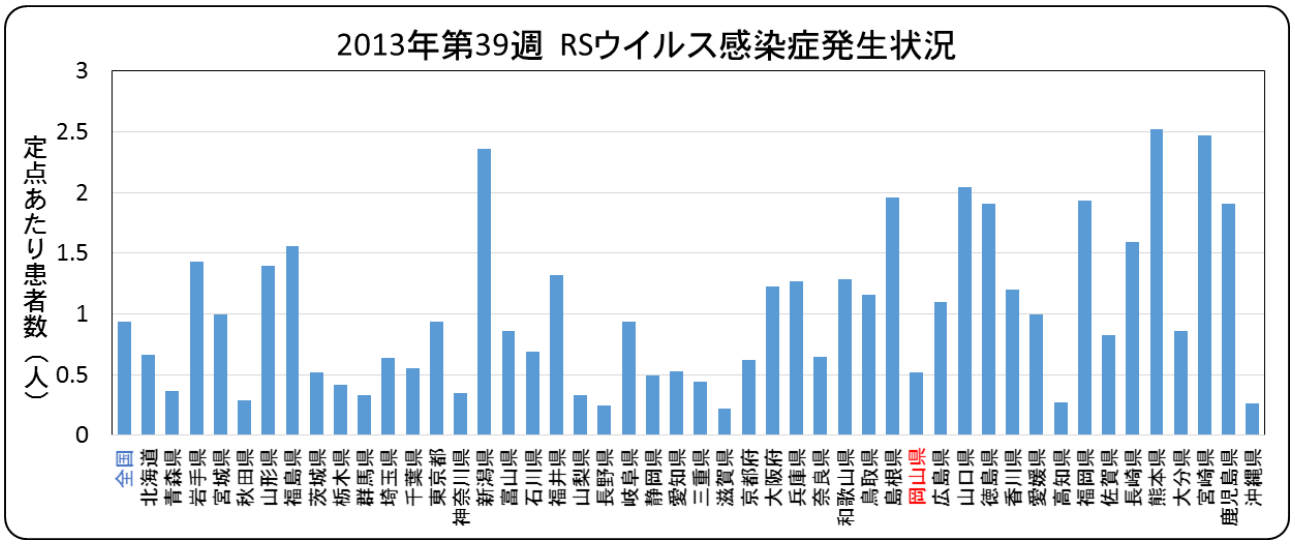
RS ウイルス感染症は、県全体で 25 名（定点あたり 0.52 → 0.46 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。第 38 週から報告数が横ばいで推移しています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後さらに患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき発生状況に注意してください。地域別では、岡山市（1.29 人）で、定点あたり患者数が多く、次いで、美作地域（0.33 人）、倉敷市（0.27 人)の順で、定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、6 ヶ月未満　25%、6-12 ヶ月　25%、1 歳　29%と、1 歳以下の乳児が 79%を占めています。

【全国の RS ウイルス感染症発生状況】



全国の第 39 週までの発生状況を見ると、第 39 週には減少したものの、流行の立ち上がりが早かった 2012 年と同様に、早い立ち上がりとなっています。RS ウイルス感染症の報告数は、2010 年頃までは冬期にピークが見られ、夏期は報告数が少ない状態が継続していましたが、2011 年以降は 7 月頃から増加傾向が見られており、近年、流行の立ち上がりが早まってきているものと推察されています。RS ウイルス感染症は、大人では軽い風邪の様な症状で軽快しますが、乳幼児などでは、重症化して肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を引き起こすことがあるため、乳幼児の感染予防に努めましょう。

（IDWR 2013 年第 36 号<注目すべき感染症>RS ウイルス感染症）



広島県（1.10 人）、鳥取県（1.16 人）、山口県（2.04 人）、島根県（1.96 人)など、近隣の県での定点あたり報告数が、岡山県よりも多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。

【RS ウイルス感染症とは】

RS ウイルスに感染することで発症する急性呼吸器感染症です。潜伏期は 2～8 日で、発熱、鼻汁、咳などで発症し、軽度の感冒様症状から、重症の肺炎や細気管支炎などの下気道疾患を発症する場合までさまざまです。症状は 7～12 日で軽快し、成人では通常、感冒様症状を起こすのみですが、初感染の場合は下気道疾患を引き起こす危険性が高くなります。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができず、乳幼児期（特に生後 6 ヶ月以内）に感染すると、高い確率で肺炎や細気管支炎などの重篤な症状を引き起こします。乳幼児において、肺炎の約 50%、細気管支炎の 50～90% はこのウイルスによるものと報告されています。また、低出生体重児や、心肺系の基礎疾患、免疫不全等がある場合には重症化のリスクが高くなります。重篤な合併症として、無呼吸発作、急性脳炎等があり、1 歳以下の乳児では、中耳炎の合併も多く報告されています。年齢を問わず、生涯にわたり感染・発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【治療・予防】

特効薬はなく、治療は対症療法が中心です。感染力が強く、主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、飛沫に汚染された手指や物品からの接触感染です。学校や保育施設などでは集団発生することもあります。RS ウイルスは眼や鼻からも感染すると考えられているため、体調の変化に応じてマスクを着用する等、咳エチケットを心がけましょう。また、年長児や大人では感染に気づかず子供にうつしてしまうこともあります。咳等の呼吸器症状がある年長児や大人は、可能な限り 1 歳以下の小児との接触を避けることが、乳幼児の感染予防に繋がります。1 歳以下の小児と日常的に接する方は、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクを着用しましょう。小児が日常的に触れるおもちゃ、手すりなどを、こまめにアルコールや塩素系消毒剤等で消毒し、流水・石けんによる手洗い・アルコール製剤による手指の消毒等を行うことが、接触感染の予防となります。

（ＲＳウイルス感染症に関するＱ＆Ａ（平成 25 年 9 月 25 日））（厚生労働省）

風しん情報

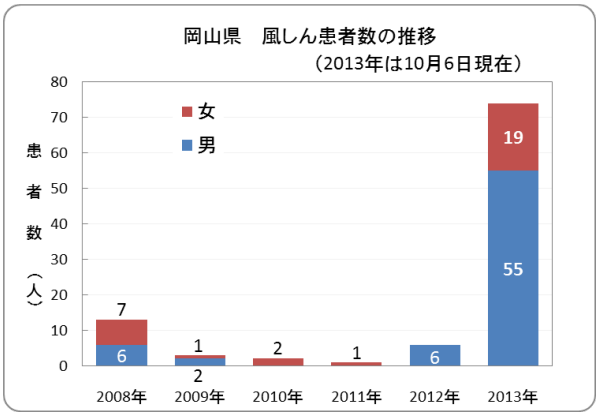
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の 5 類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、7 日以内に最寄りの保健所に届出ることになっています。

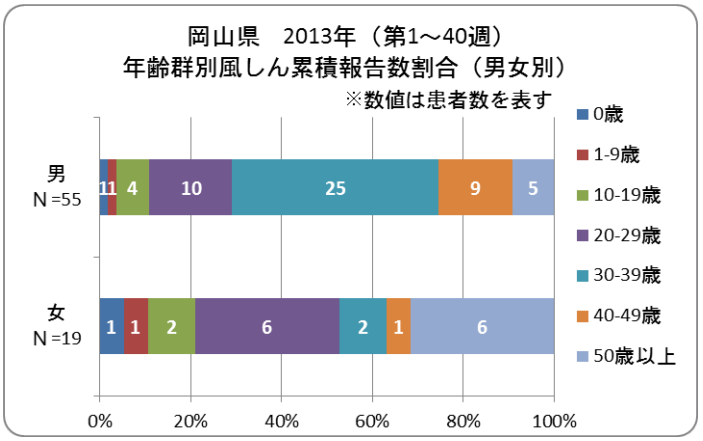
今年は、関東地方・近畿地方を中心に多数の患者が発生しています。風しんは、せき、くしゃみ等の飛沫により感染します。全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

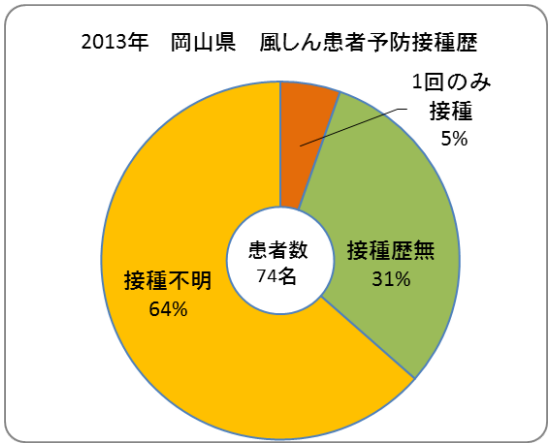
（国立感染症研究所　風しん Q&A）

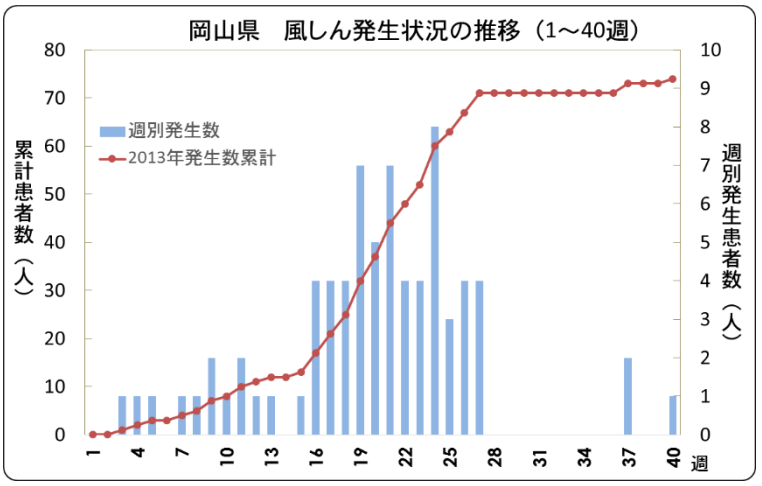
【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、第 40 週に 1 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 74 名となっています。患者は、全国集計同様 20～30 代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが 23 名、接種不明が 47 名、1 回のみ接種が 4 名でした。





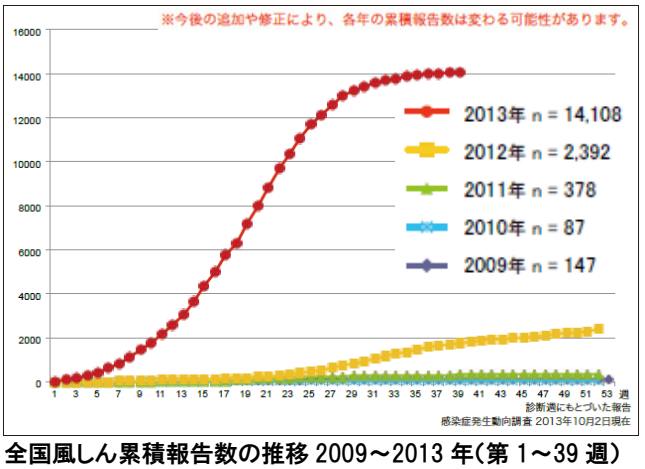




【全国の風しん発生状況】

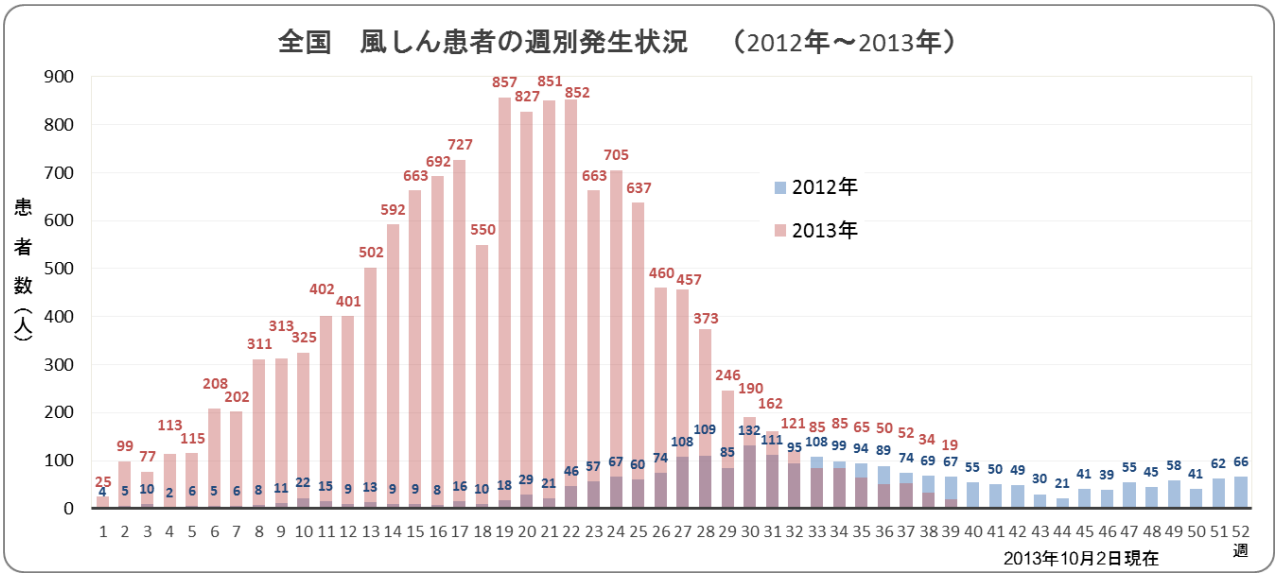
今年、全国の第 39 週までの累計報告数は 14,108 名であり、1 週間の発生報告数が昨年同時期を下まわったものの、関東地方・近畿地方を中心に、依然、患者の発生が続いています。患者の約 8 割は男性で、そのうち 20～40 代が 82% を占めています。また女性は、20～30 代が 56% を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかったか、集団接種から個別接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

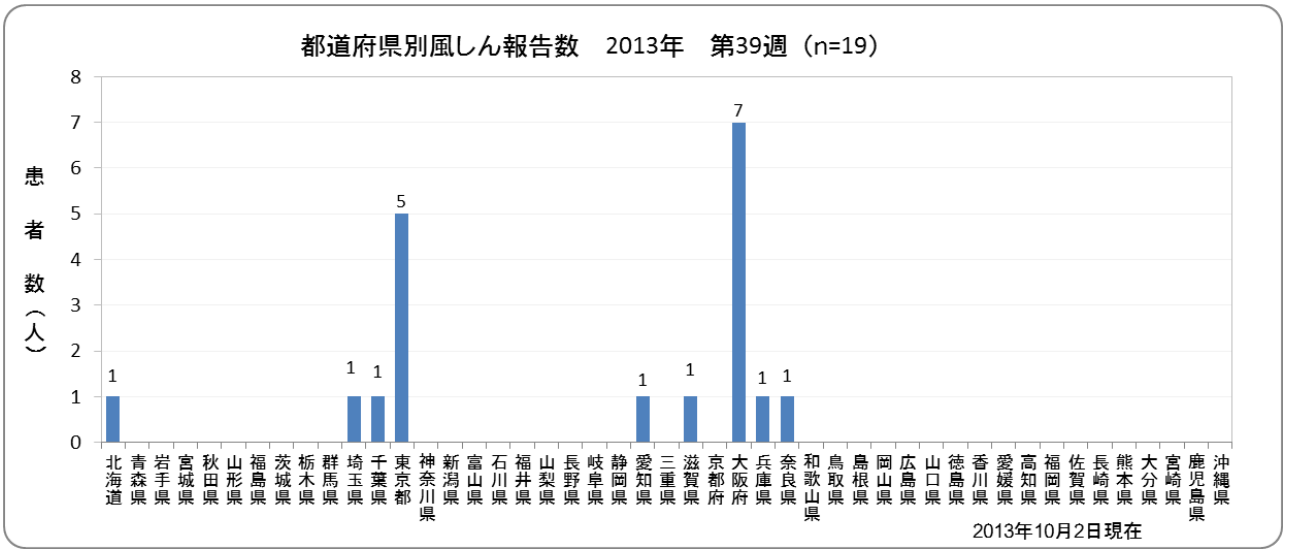
妊婦が風しんにかかり胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群（CRS）は、2012 年は 4 名でしたが、2013 年は 10 月 8 日までに、すでに 14 名の発生がありました。（先天性風しん症候群(CRS)の報告（2013 年 10 月 8 日現在）（国立感染症研究所））



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013 年(第 1～39 週)

国立感染症研究所　感染症疫学センターホームページより





【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しんの対策も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を接種することが推奨されています。

おかやま医療情報ネットから、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数　2013年 40週　（2013/09/30～2013/10/06）

2013年10月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症	25	0.46	18	1.29	3	0.27	2	0.20	－	－	－	－	－	－	2	0.33
咽頭結膜熱	8	0.15	4	0.29	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	19	1.36	5	0.45	－	－	－	－	2	0.50	3	1.50	3	0.50
感染性胃腸炎	219	4.06	73	5.21	51	4.64	32	3.20	12	1.71	31	7.75	5	2.50	15	2.50
水痘	28	0.52	16	1.14	9	0.82	2	0.20	－	－	1	0.25	－	－	－	－
手足口病	72	1.33	16	1.14	30	2.73	8	0.80	12	1.71	4	1.00	－	－	2	0.33
伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
突発性発疹	25	0.46	14	1.00	3	0.27	5	0.50	2	0.29	－	－	－	－	1	0.17
百日咳	2	0.04	1	0.07	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	9	0.17	1	0.07	1	0.09	4	0.40	－	－	1	0.25	－	－	2	0.33
流行性耳下腺炎	7	0.13	2	0.14	3	0.27	2	0.20	－	－	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	6	0.50	－	－	4	1.00	－	－	－	－					2	2.00
細菌性髄膜炎	1	0.20	－	－	－	－					1	1.00	－	－	－	－
無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	3	3.00	1	1.00					－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎	1	0.20	－	－	1	1.00					－	－	－	－	－	－

（－：　0　or　0.00）　　（空白：定点なし）

保健所別報告患者数　2013年 40週　（2013/09/30～2013/10/06）

2013年10月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	8	0.15	4	0.29	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	19	1.36	5	0.45	－	－	－	－	2	0.50	3	1.50	3	0.50
感染性胃腸炎	219	4.06	73	5.21	51	4.64	32	3.20	12	1.71	31	7.75	5	2.50	15	2.50
水痘	28	0.52	16	1.14	9	0.82	2	0.20	－	－	1	0.25	－	－	－	－
手足口病	72	1.33	16	1.14	30	2.73	8	0.80	12	1.71	4	1.00	－	－	2	0.33
伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	2	0.04	1	0.07	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	9	0.17	1	0.07	1	0.09	4	0.40	－	－	1	0.25	－	－	2	0.33
流行性耳下腺炎	7	0.13	2	0.14	3	0.27	2	0.20	－	－	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	6	0.50	－	－	4	1.00	－	－	－	－					2	2.00

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２、レベル３に該当するものはありませんでした。

（－：　0　or　0.00）　（空白：定点なし）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2013年　第40週　 2013/09/30～2013/10/06 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	25	2	6	13	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	1	2	1	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	-	1	-	1	1	5	3	9	5	3	1	2	-	1
感染性胃腸炎	219	3	22	34	21	18	13	14	20	6	4	5	22	10	27
水痘	28	-	-	9	2	9	1	-	3	2	-	1	-	1	-
手足口病	72	2	6	20	15	12	6	2	2	1	2	-	2	1	1
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	25	2	9	12	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	-	-	2	2	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	-	-	-	1	2	2	-	1	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1

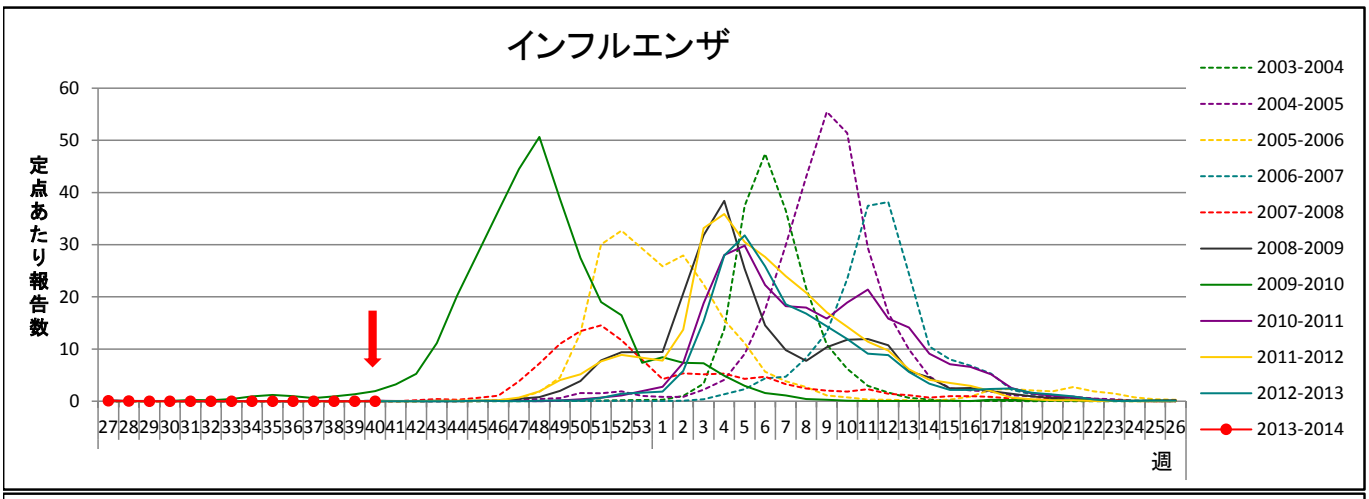
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

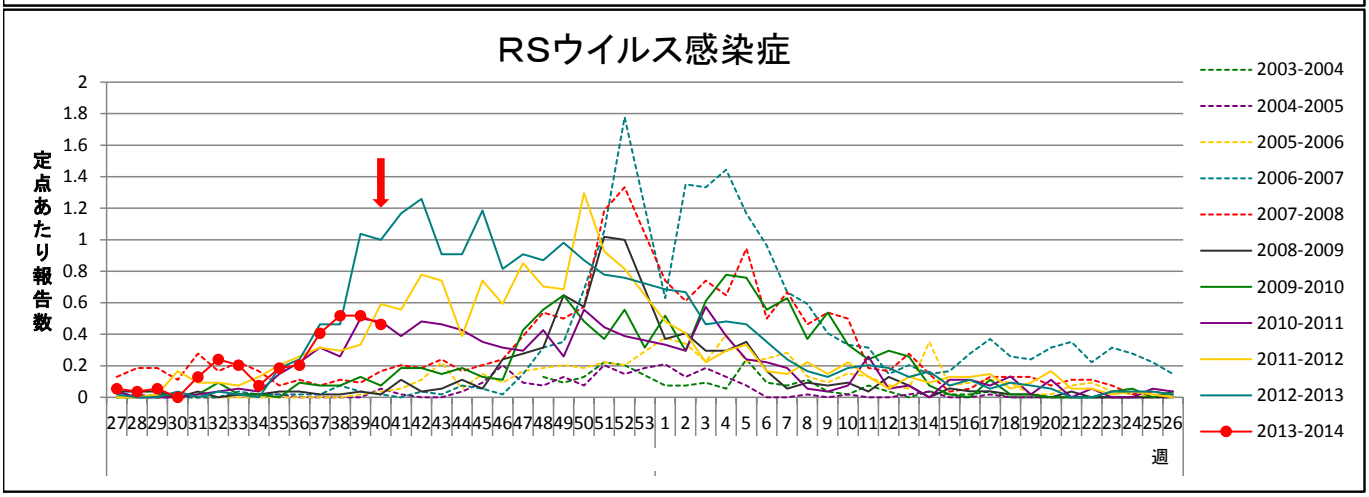
（－： 0 ）

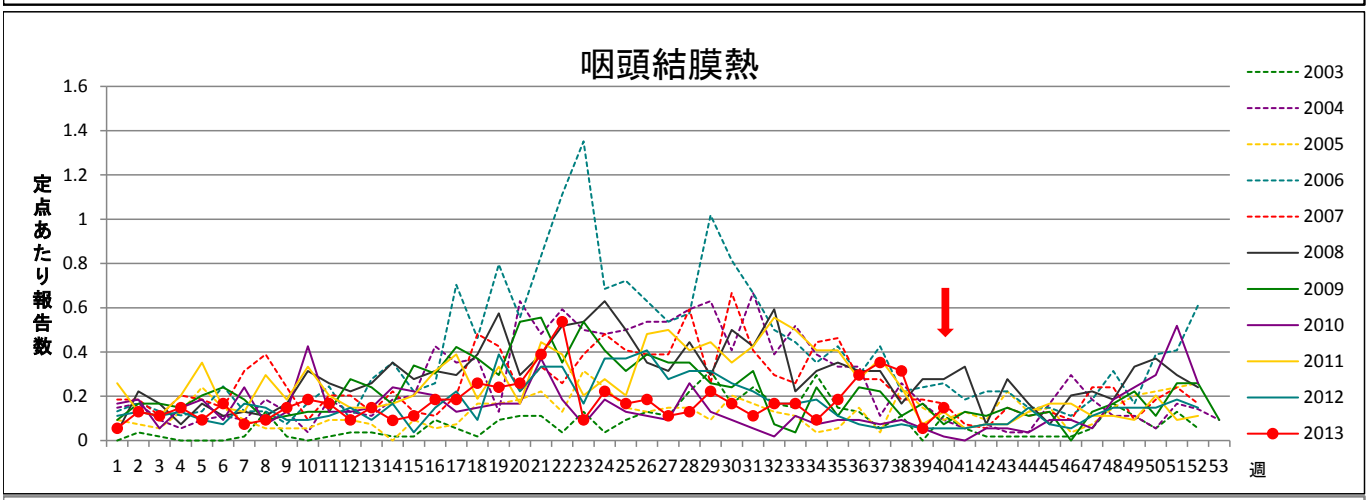
全数把握 感染症患者発生状況

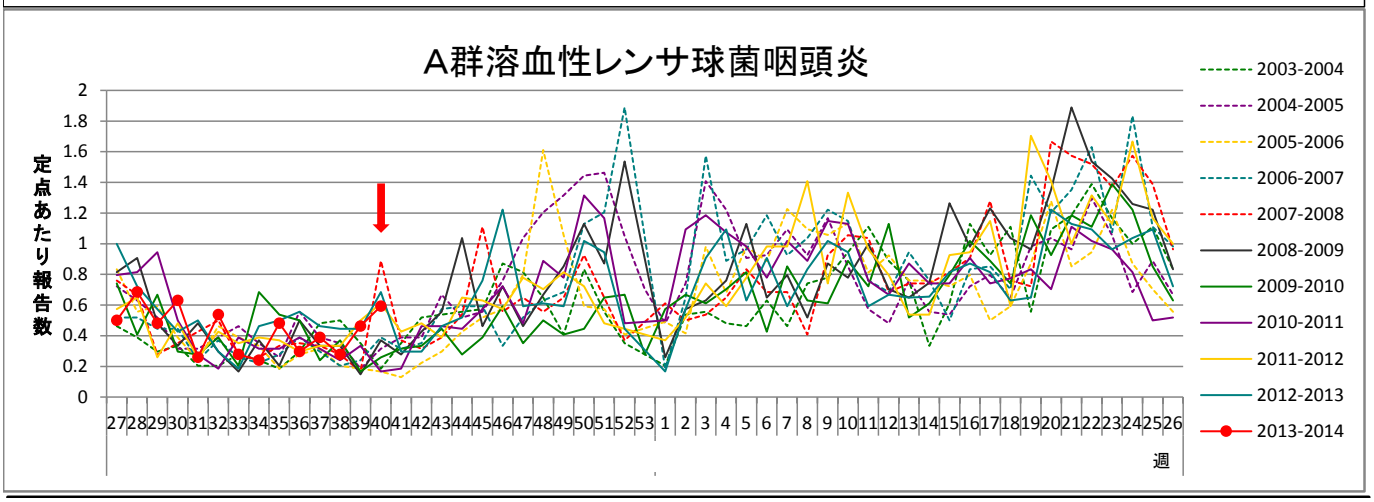
2013 年 40 週

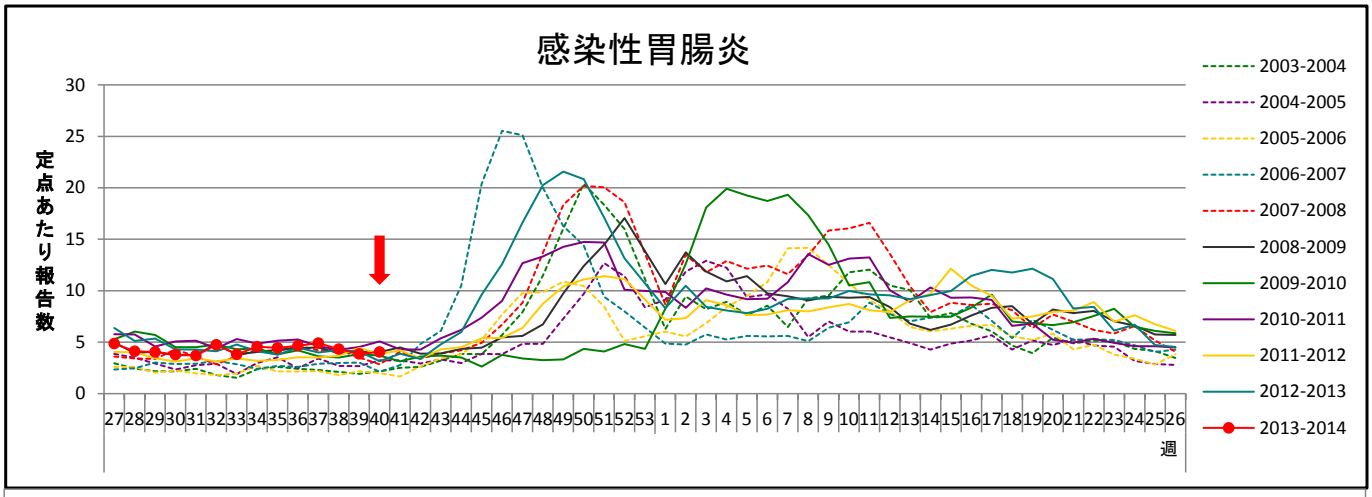
分類	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	2	274	477	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	–	腸管出血性大腸菌感染症	2	68	169
	腸チフス	–	1	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	–	–	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	5	2
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	2	–	腎症候性出血熱	–	–	–
	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–	炭疽	–	–	–
	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	2	デング熱	–	–	1
	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–	ニパウイルス感染症	–	–	–
	日本脳炎	1	1	–	日本紅斑熱	–	–	–	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–
	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–	ブルセラ症	–	–	–
	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–	発しんチフス	–	–	–
	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	1	–	野兎病	–	–	–
	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–	リフトバレー熱	–	–	–
	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	1	19	29	レプトスピラ症	–	1	–
	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	9	11	ウイルス性肝炎*3	–	10	7	急性脳炎*4	–	4	2
	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	4	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	2	1
	後天性免疫不全症候群	–	10	16	ジアルジア症	–	1	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	1	–
	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	1	12	–	先天性風しん症候群	–	–	–
	梅毒	1	4	7	破傷風	–	2	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	1	2	風しん	1	74	6	麻しん	–	2	6

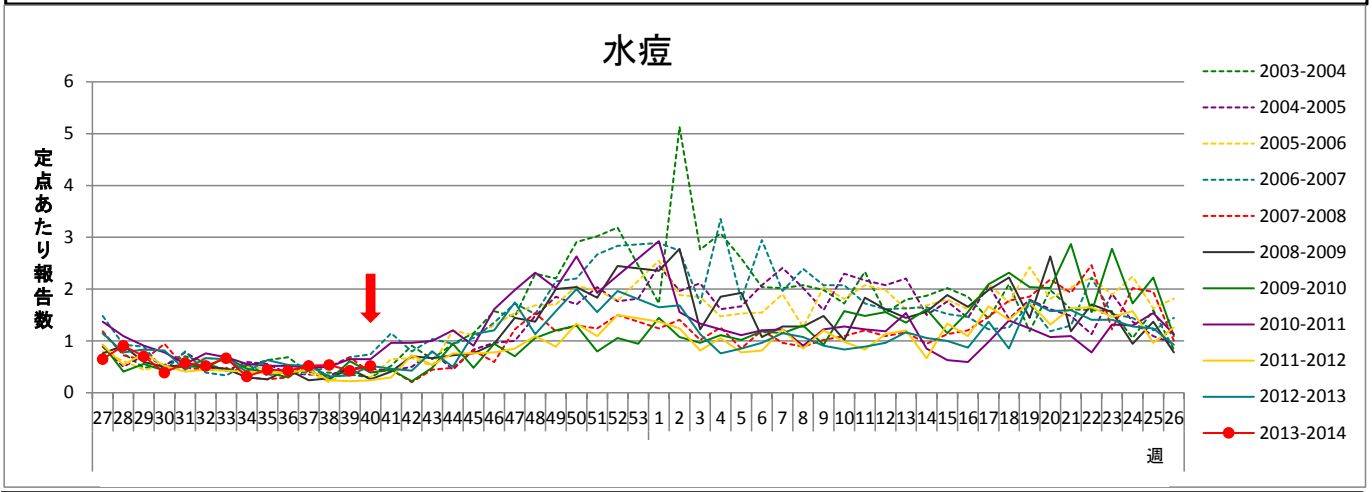

インフルエンザ
定点あたり報告数
60
50
40
30
20
10
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

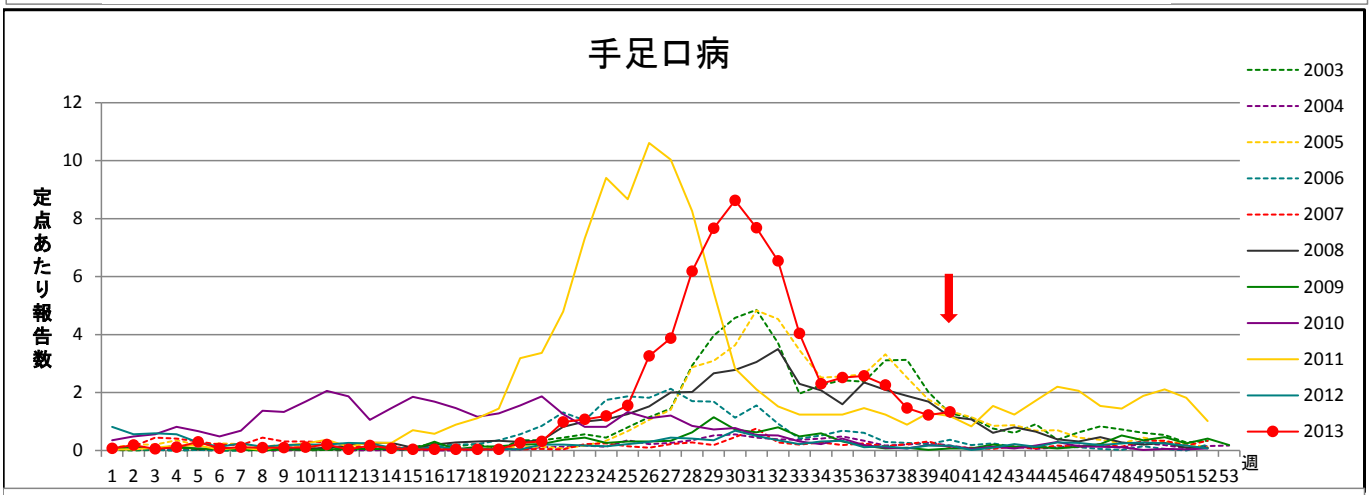

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
2
1.8
1.6
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

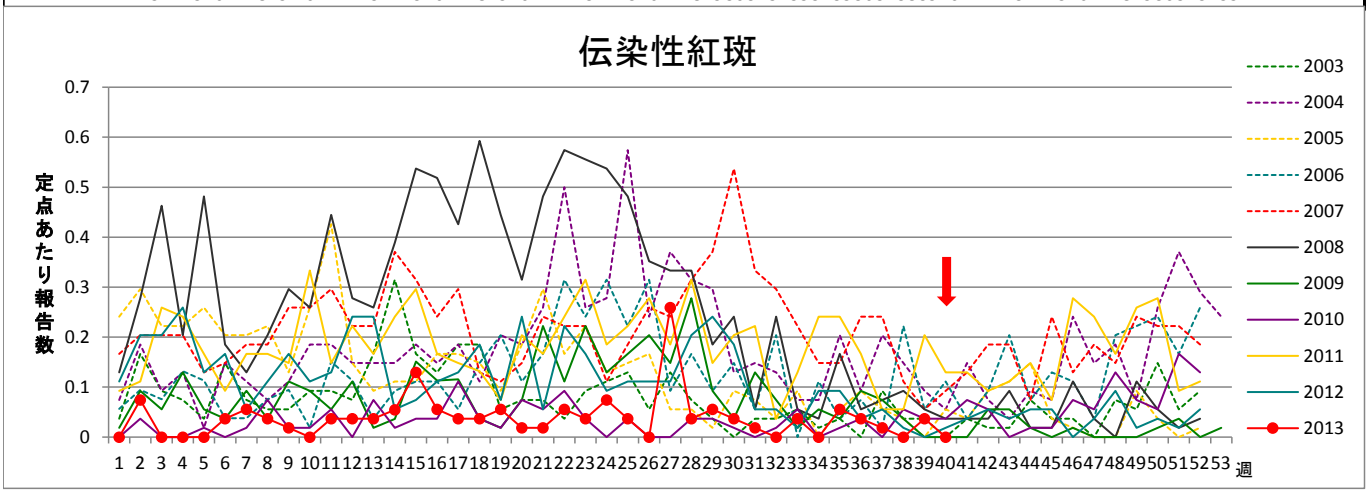

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
1.6
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

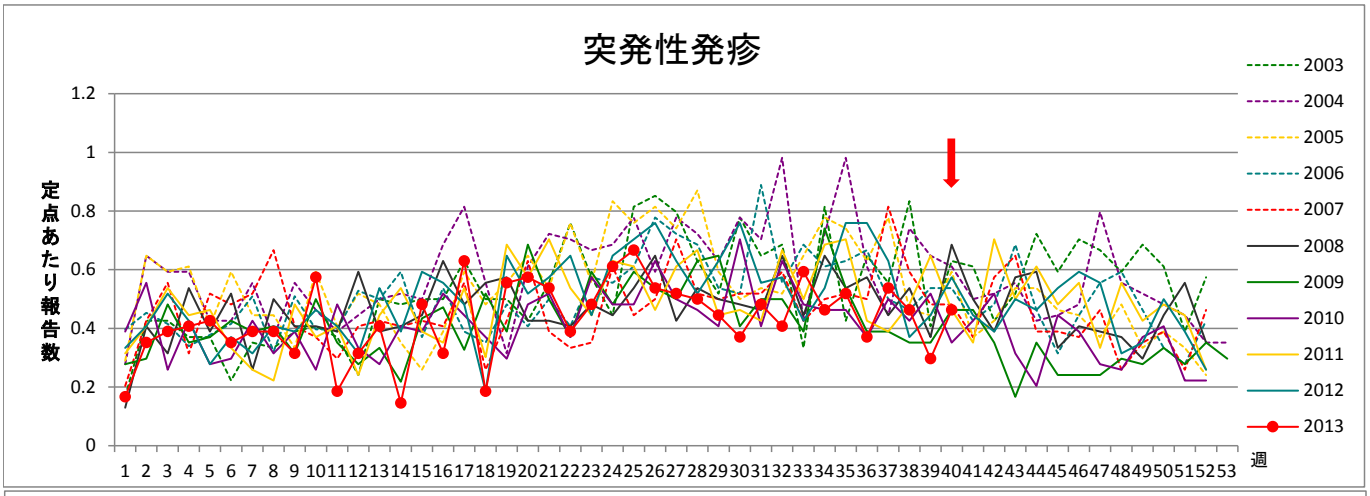

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
2
1.8
1.6
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

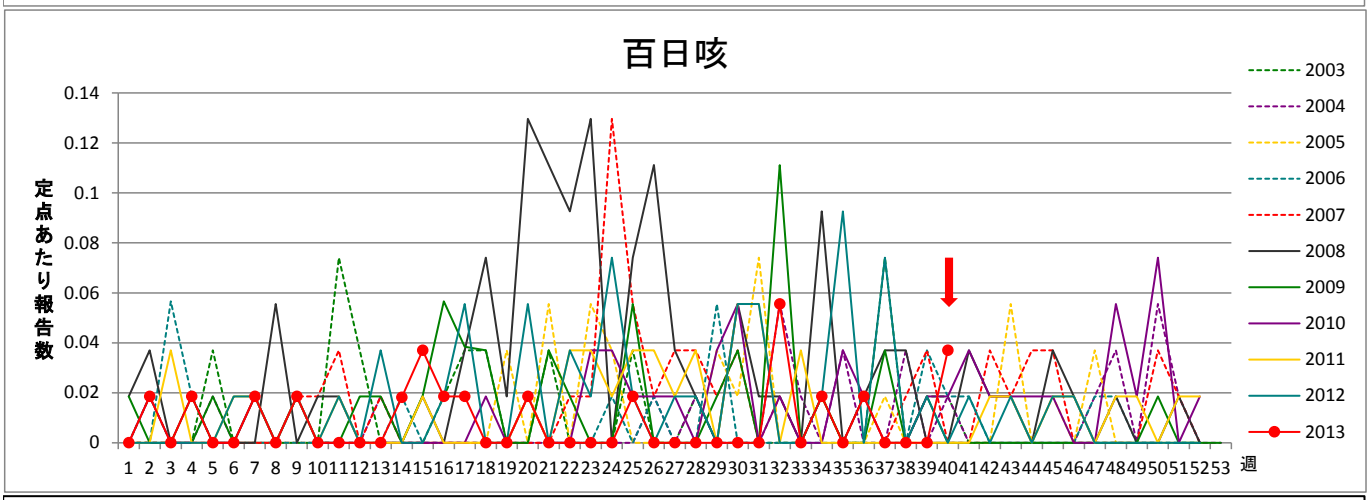

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

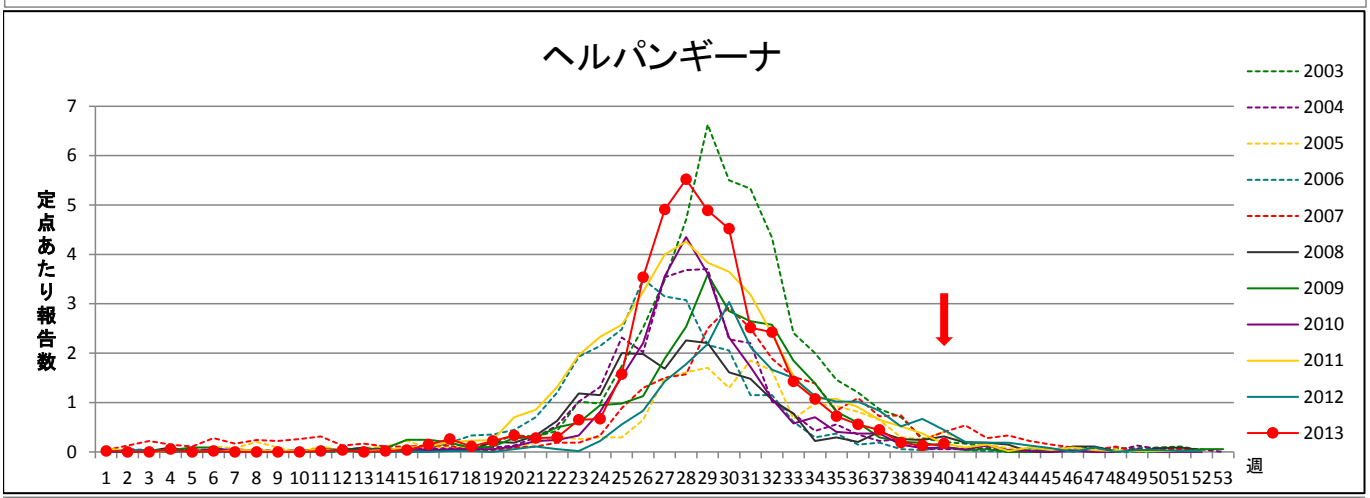

水痘
定点あたり報告数
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

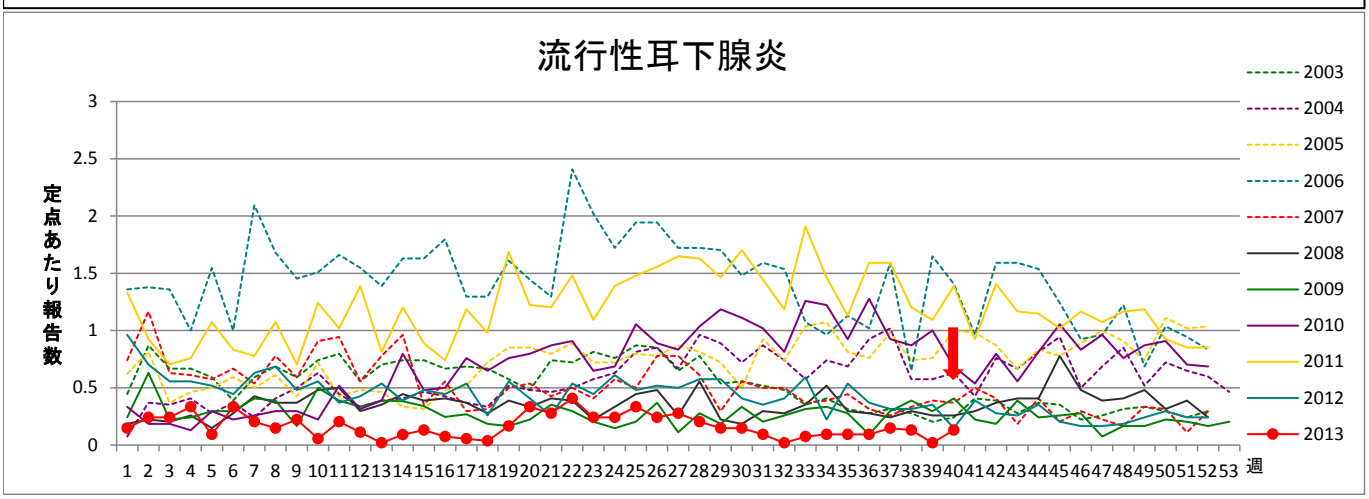

手足口病
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

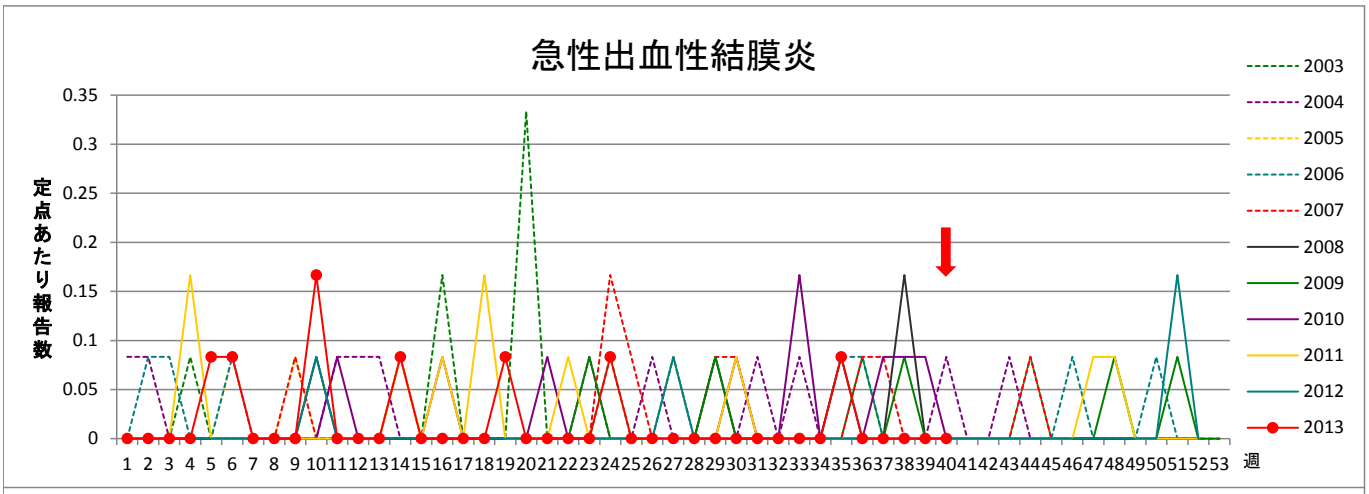

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

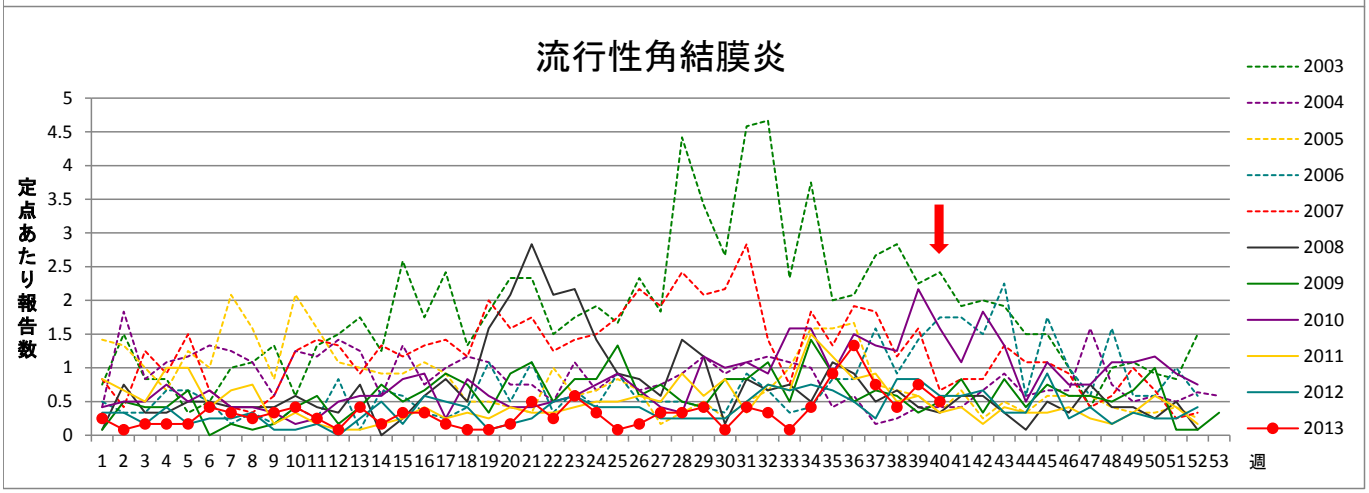

突発性発疹
定点あたり報告数
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

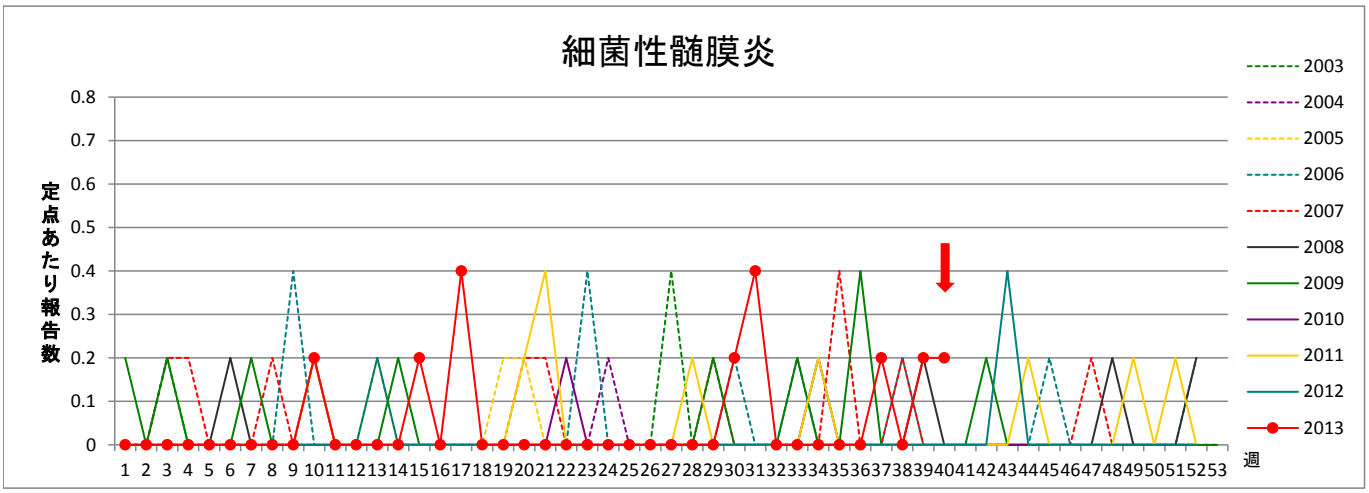

百日咳
定点あたり報告数
0.14
0.12
0.1
0.08
0.06
0.04
0.02
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

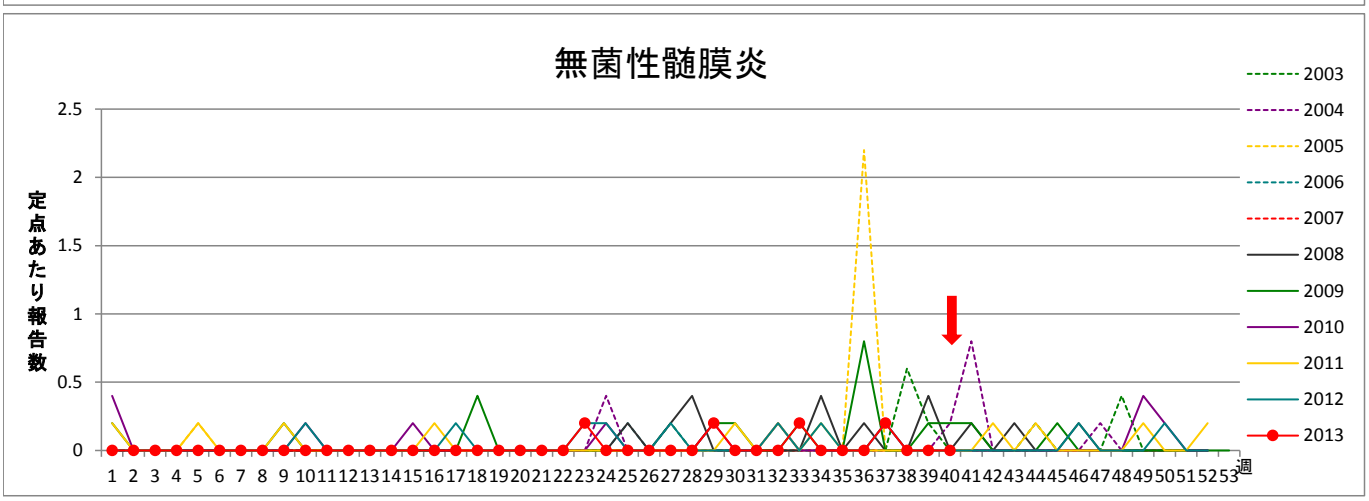

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
7
6
5
4
3
2
1
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

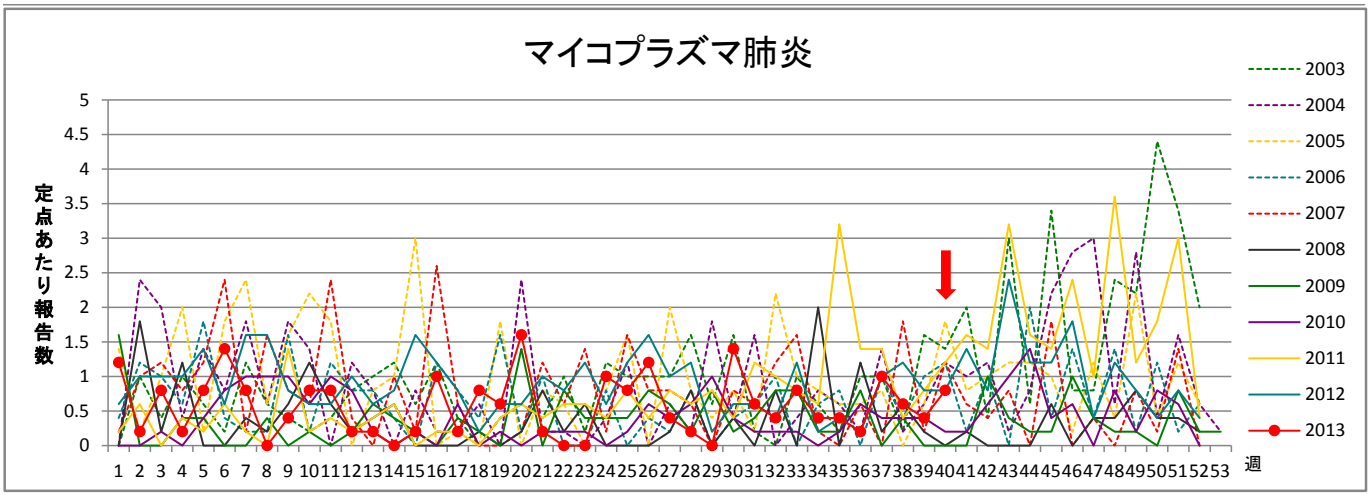

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

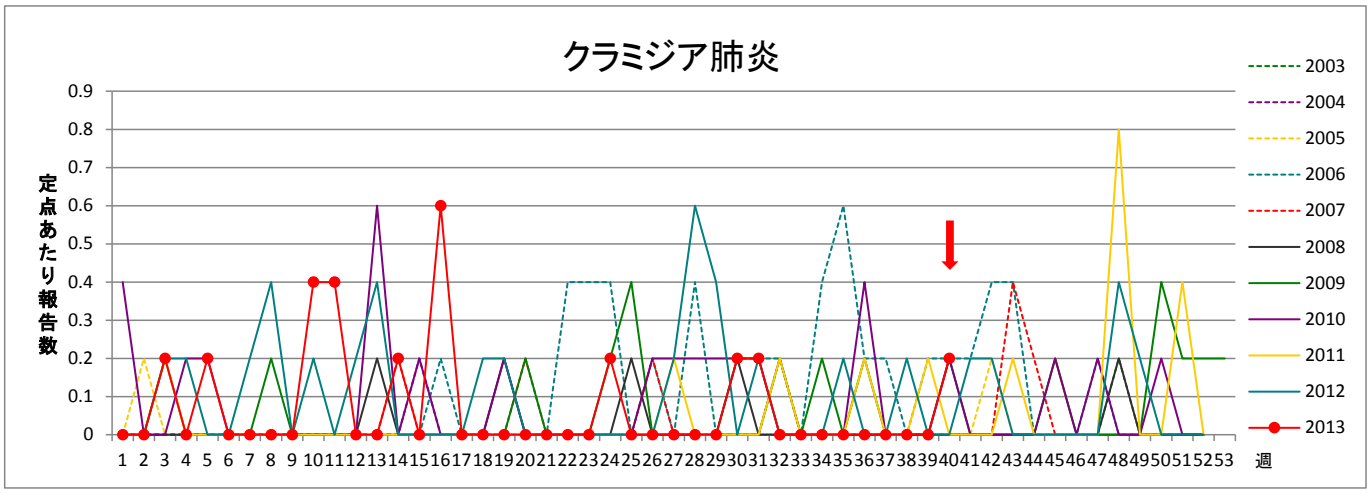

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
0.35
0.3
0.25
0.2
0.15
0.1
0.05
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


流行性角結膜炎
定点あたり報告数
5
4.5
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
0.8
0.7
0.6
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
5
4.5
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
0.9
0.8
0.7
0.6
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013